

◇我が家の家系に閑取が誕生していた？

大槻伸次

私の実家の本家（父の生家）に由来する家系から「閑取」が誕生したと、子供の頃父から講釈を聞いたのを思い出した。

それは、父の母（私の祖母以下祖母）が本家に嫁いで（明治30年代）まもない田植えの繁忙期の夕暮れ時、夕食の仕度をしていたところ玄関で今晚は！今晚は！と太くて低い声がするので不審に思って応対したら、そこには羽織袴で丁髷を結ったすごい大男が立っていたという。 ■写真右はイメージ

祖母は丁髷の大男に全然面識が無く、何事かと腰が抜けるほどぶつたまげたそうだ。そこで、気を取り直し恐る恐る応対するとなんと閑取だと自己紹介されたという。そうこうしていたら家人が農作業を終え帰つたので詳しい事情を尋ねると、過去に当大槻家から桐生へ嫁がれた女子の子孫だと自己紹介されたという。そこで、当大槻家から桐生（当時は山田郡だったかどうか定かでない）に嫁いだ女子がいるのは確かであると伝えたという。

大男は、念願の閑取（十両以上）になれたので、先祖の地を訪れ墓にお参りし閑取になれたことを報告したいと云ったそうである。そしてその晩本家に一泊し、翌日墓参りをして閑取になったことを報告して帰ったという。その後、父の生家の在る地区では大槻家さんちに相撲取りがきたと近所中の大評判となり、暫くその話題で持ちきりだったと聞いた。ところが、それっきりで音信が途絶えてしまったという。

父の話では、音信が途絶えてしまったのは本家に来たころが閑取の絶頂期で、その後成績が振るわなかつたのだろうと云っていた。当時はマスコミが発達してなく、その後の成績を知る手段もなかったようだ。私自身すごく残念だったのは父から閑取名など詳しく聞いたが、遠い昔のことですっかり忘れてしまって後悔している。

そこで、明治時代に群馬県で活躍した力士を調べたところ山田郡出身（現在の桐生）の「白梅文治郎・しらうめ・ぶんじろう」（1884年1月25日生～1936年1月31日没）がいたそうである。峰崎部屋（入門時は白玉部屋）に所属した大相撲力士で、最高位は西張り出し前頭18枚目。現役時代の体格は身長164cm、体重86kg（相撲取りとしては小柄）。得意手は右四つ投げだったという。力士のエピソードとしては、初っ切りの名人として知られたという。白梅亡き後、群馬県出身の力士は、戦後に栃赤城が登場するまで1人も出なかつたというから活躍年代と出身地が驚くほど合致するので大槻家の血を引く力士の可能性が大であると考えるが。（2025/11/18記）

▼略歴・1901年（明治34年）5月場所初土俵（序の口）・1907年（明治40年）5月場所新十両に昇進・1912年（明治45年）5月場所新入幕・1915年（大正4年）6月場所廃業。▼主な成績・幕内成績：2勝8敗（1場所）・十両成績：23勝24敗2分け5預かり（9場所）▼改名歴・小松谷文次郎（こまつだに ぶんじろう・松は上辺が木でしたが公と書く）1901年5月場所～1907年1月場所・白梅文次郎（しらうめ ぶんじろう）1907年5月場所～1915年6月場所。

